

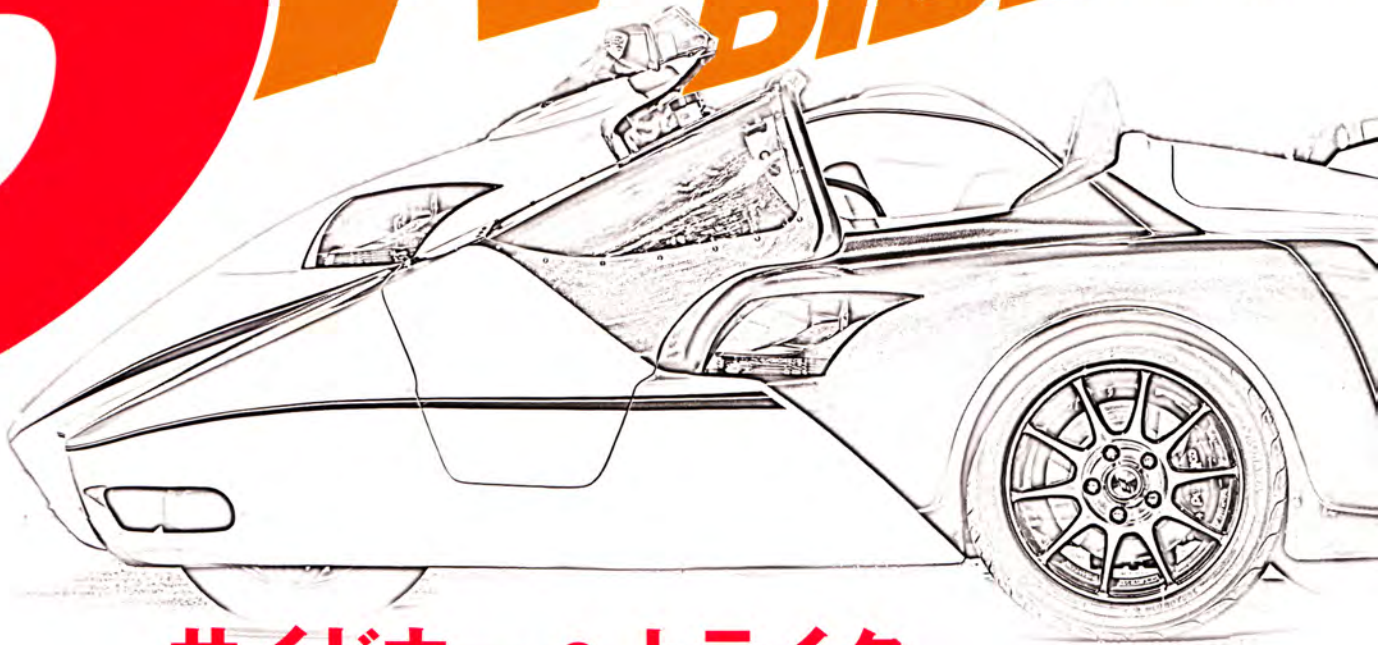
日本で買える3輪モデル
全収録アルバム

雑誌「バイク・マガジン」2014年12月号

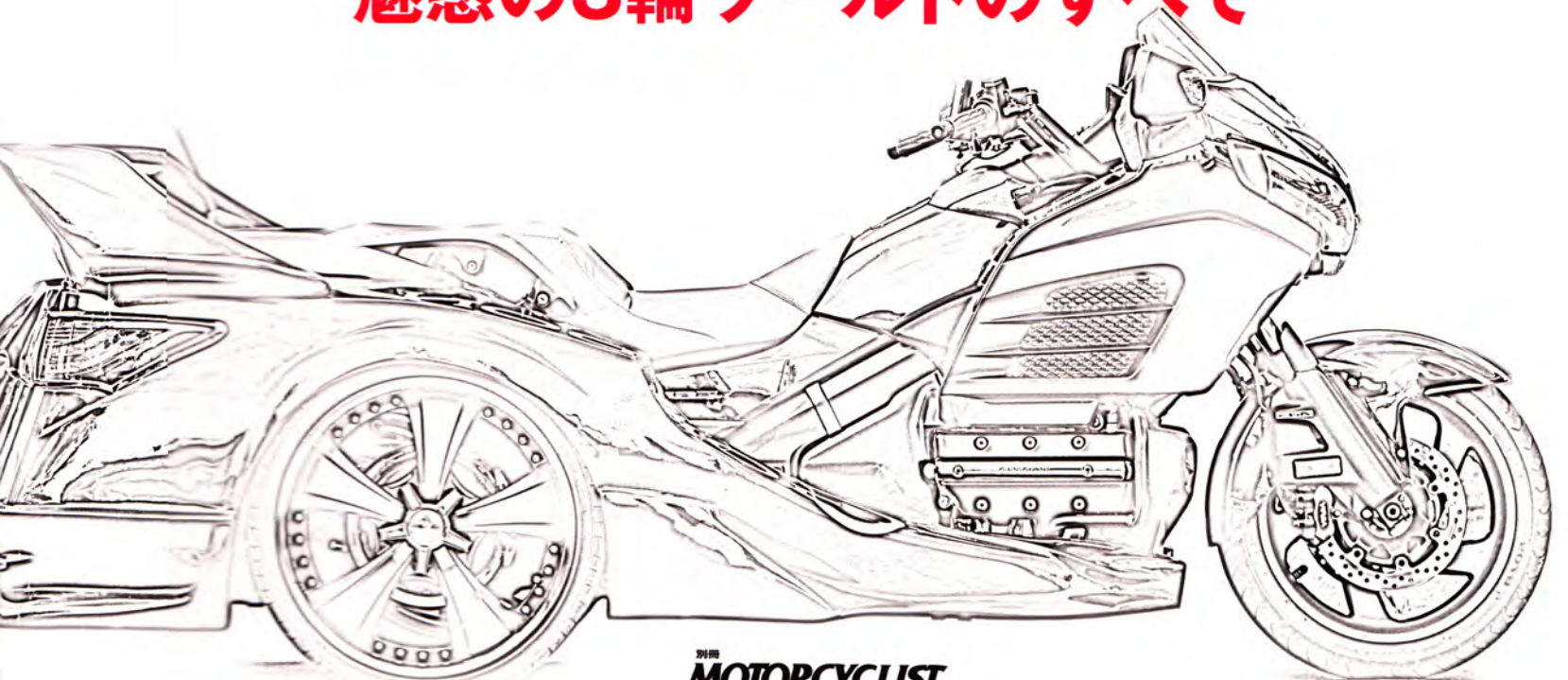
BMW THREEWHEELER'S BIBLE-2

スリー・ホイーラーズ・バイブル-2

小関和夫監修



サイドカー & トライク
魅惑の3輪ワールドのすべて



別冊
MOTORCYCLIST

特別編集

GL1800がベース、オランダ発最新鋭逆トライク

GL1800 REVERSED-TRIKE R18

by GARAGE BOSS リバーストライク / ガレージボス

トライクはモーターサイクルの後部を2輪化した日本の3輪トラックを原点とし、1920年代にハーレーやインディアンをベースに発展した。今日でいうハーレーの純正トリグライドなどの前1輪後ろ2輪のイメージが強い。それに対してモーターサイクルの前部を2輪にした形態のものを逆(リバース)トライクという。前輪を操舵しつつサスペンション機能を持たす必要があり、設計が難しいとされるが、世界的に話題の最新鋭R18トライクを紹介しよう。

欧州の一流GL店が開発した信頼性

ガレージBOSSは、内外トライクの最も多くのブランドを扱ってきたショップと言える。いわば輸入会社である奈良県天理市の谷口トレーディングが扱うトライクのすべてを、これまでも扱ってきた。アメリカの初代リーマン、カナダのハニガンをはじめ、欧州製のオランダEMLなどの大型トライクの取り扱いでも知られている。

ちなみに昨今の欧州では、前1輪の通常トライクよりも前2輪の逆トライク製作に熱心な例が少なくない。その最新型がオランダ・スタージス社のR18と呼ばれるGL1800

ベースの逆トライクである。

ブランド名のRはリバース=逆、18はGL1800を意味すると思われる。近年、こうしたタイプのマシンが造られてきているのは、サスペンション系が自動車レースの最高峰にあたるフォーミュラ1と同じ構造のもので設計して製作できる、といった理由があるのかもしれない。

すでに前1輪トライクの高級車種では、後輪ダブルウィッシュボーンが当たり前になっている。サイドカーの場合も同型式が採用される例も少なくないから、トライクやサイドカー製造業者にとって挑戦したい分野なのかもしれない。

今回紹介するR18逆トライクが広く知られるようになったのは、'14年3月のデイトナ・バイクウィークといわれる。そして米国での輸入元が東部と西部に出来たことで、米国の雑誌に取り上げられた。

このR18の日本への輸入第一号車のオーナーも、偶然ネットサーフィンをしていて最新の逆トライクR18を見つけたという。オーナーは逆トライクに興味があり、日本で発売なったカナダBRF社のカンナムスパイダーの試乗会にも数度出向いたという。

しかしパワー的にしっくり来ず、ネットでR18を見つけ、ガレージBOSSに「輸入できないか?」問い合わせたという。そして谷口



GL1800 REVERSED-TRIKE R18
 主要諸元
 ■エンジン 水冷4サイクル水平対向6気筒 OHC2バルブ ボア×ストローク74×71mm 排気量1832cc(1832cc) 圧縮比9.8 燃料供給方式:電子式燃料噴射PGM-FI 点火方式フルランジスタ式バッテリー点火 始動方式セル
 ■性能 最高出力80kW(109ps)/5500rpm 最大トルク161Nm(16.4kg-m)/4000rpm
 ■変速機 5段リターン 変速比①2.375②1.454③1.068④0.843⑤0.685 一次減速比1.591 二次減速比1.028x2.750
 ■寸法重量 全長2810mm 全幅1610mm 全高1520mm タイヤ②05/45ZR17 ①185/65R16 車両重量530kg
 ■容量 燃料タンク25ℓ オイル4.6ℓ
 ■価格 R18キットのみ250万円 車両、セッティング、諸費用納車費用、消費税など別途

GARAGE BOSS
 〒658-0025
 神戸市東灘区魚崎南町3-2-3
 ☎078-451-0260
 営業時間:10:00~19:00
 定休日:毎週日曜
 予約の方のみ見学など可能
<http://www.garage-boss.com/>



フロントのダブル・ウィッシュボーンサスはVアームの上下を「三角板」ガセットでサンドイッチした強じんなもの。ショックユニットはドイツ製ウィルバースを装着。



ブレーキはGL純正3ポットキャリパー&296mm径ディスク&ABS+前後運動方式を流用。電気信号を変えないという、いかにもGLディーラーの製品らしい設計だ。



扁平16~17インチのタイヤホイールに対応させるため、路面からのキックバックシミー(ブレなど)を防止するためにステアリングダンパーが装備される。



フロントカバーのデザインはカンナムを意識した感じだが、より精かかさがあるフォルムになっている。夜間走行のために4灯の補助ランプを装備している。



フレームはクロス状にくり抜いた鋼鉄をサイコロ状に溶接した強じんなものをGLの前方にマウント。最低地上高は外誌によると100mmでカンナムより15mm低い。



BOSSオリジナルのステップ泥除け、逆トライクでは前輪のハネが多いため特別に製作。ステーなどの造作に微細な造りがされていて高い技術力を感じる。



質感の高いパーキングブレーキレバーが車体右側に装備される。GL本体の年式によって装着しなくてもいいが、やはり装着されていると街中などでは安心できる。



車幅は1610mmと小型乗用車と変わらないが、後続車ドライバーの認識用にLEDを追加装備。これが刻々時にはけっこう目立つ。欧米で流行のアイテムである。



トレーディングが、R18の製造元と輸入代理店契約を交わした時期と偶然にも重なり、速攻での輸入となったわけである。

製造元のスタージス・モーターレン社はオランダの北東、アンディジックという美しい街並の広がる工業団地の中にある。代表者のピーター・ラメスはホンダGLの販売をしていたが、3年前から逆トライクに着手。それを見たアメリカ人が、カンナムスパイダーと、ほぼ同じような価格でGLの逆トライクが造れると判断して扱い始めたのが広く知られるきっかけだった。

車体寸法は、カンナムに類した数値に収まっており、たとえばホイールベースは1700mmと同じ。燃費比較ではカンナムより

もよい結果が出たという。

構造的には、クロスメンバー入りボックスフレームをGLの車体にマウントして、極太鋼管によるガセット入りVアームを上下にマウント。ショックアブソーバーにはウィルバースを選択、正確な治具による精度のよいパーツの組み合わせで7ヵ月3万2000kmの耐久テストを経ての製品化であったとされる。

GL系のフラット6エンジンはおとなしくも乗れるが、6000rpm以上のパワーとサウンドは何とも言えない高周波のホンダサウンドを発してくれるので楽しい。現オーナーもそうした乗り方をしているらしく、サイドカーに変わって逆トライクを全開走行しているらしい。確かに、このR18を動かしてみると、違和

営業内容には「トライク・サイドカー等の輸入・製造販売・修理・輸入車の日本仕様の企画・開発・輸入車、オリジナルパーツの開発・販売」とある。廣尾久代表は片山義美氏率いた神戸木ノ実レーシングが全日本MXのメカ人を経験、改善から電気までこなせる人物として知られる。



感を覚えることなくコントロールができる。左右へのターンも軽い部類で、車輪内側が意識しなくても浮きやすいが、運転者にはそれが分からず、素直なハンドリングが得られており、逆トライクの中でもお勧めの1台と言えるだろう。